

証券コード6859

# エスペック株式会社

## 2022年度(2023年3月期) 決算説明

2023年5月24日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

# 決算総括

部品調達難、部材価格高騰は継続したが、エレクトロニクス・自動車市場が好調維持  
受注高・売上高は過去最高を更新、利益面も前期比で大幅に増加

	前期比	予想比(2022年10月修正)
■ 受注高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(主に環境試験器)が大幅増	○ 装置事業(主に環境試験器)およびサービス事業が上回る
■ 売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が大幅増	○ 装置事業(環境試験器)およびサービス事業が上回る
■ 営業利益	○ 部材価格高騰・販管費増加の影響を受けたが増収により大幅増	○ 売上高の上振れと販管費減少により上回る
■ 経常利益 親会社株主に帰属する当期純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の上振れにより上回る

■ 1株当たり配当金は、期初計画のとおり、中間24円、期末45円、年間69円を予定  
(75周年記念配当 中間2円、期末2円、年間4円を含む)

# 損益の状況

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	51,303	59,000	59,521	+16.0%	+0.9%
売上高	41,852	52,000	52,892	+26.4%	+1.7%
売上原価 (原価率)	27,849 (66.5%)	34,200 (65.8%)	34,935 (66.0%)	+25.4% 0.5pt改善	+2.2% 0.2pt悪化
売上総利益	14,003	17,800	17,957	+28.2%	+0.9%
販管費	12,034	13,800	13,590	+12.9%	△1.5%
営業利益	1,968	4,000	4,366	+121.8%	+9.2%
経常利益	2,322	4,350	4,664	+100.9%	+7.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,905	2,900	3,330	+74.8%	+14.9%
ROE (自己資本当期純利益率)	4.2%	期初予想 8.0%	7.2%	+3.0pt	△0.8pt

2021年7月よりエスペックサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

# セグメント別の損益の状況

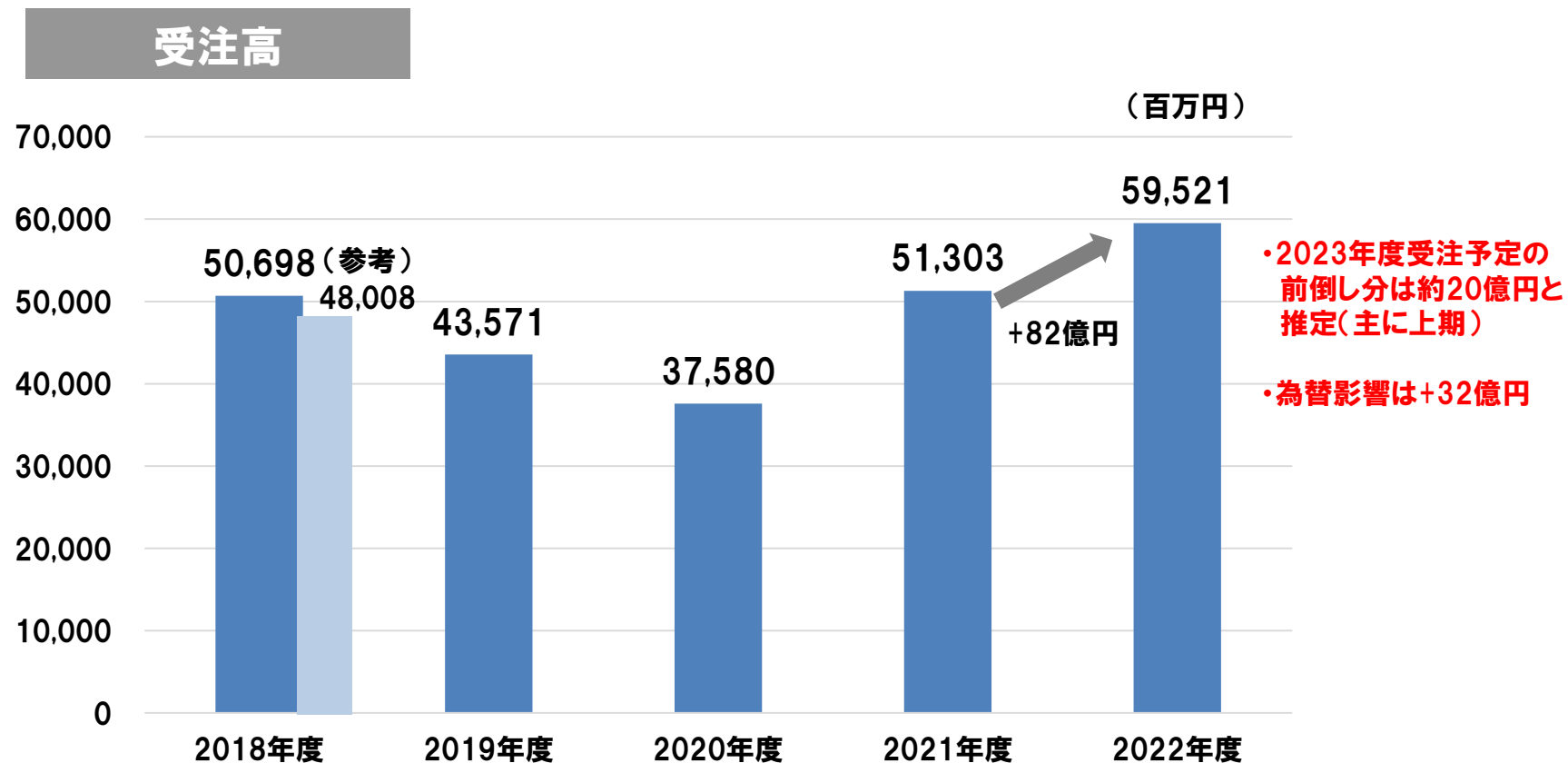
(百万円)

		2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
装置事業	受注高	43,535	51,000	51,446	+18.2%	+0.9%
	売上高	34,518	44,400	45,031	+30.5%	+1.4%
	営業利益	1,370	3,760	3,919	+186.0%	+4.3%
サービス事業	受注高	6,771	6,720	6,963	+2.8%	+3.6%
	売上高	6,407	6,470	6,788	+5.9%	+4.9%
	営業利益	618	230	428	△30.8%	+86.1%
その他事業	受注高	1,265	1,580	1,469	+16.1%	△7.0%
	売上高	1,188	1,430	1,404	+18.2%	△1.8%
	営業利益	△23	10	16	-	+65.4%
連結消去	受注高	△269	△300	△359	-	-
	売上高	△261	△300	△330	-	-
	営業利益	2	0	1	-	-
計	受注高	51,303	59,000	59,521	+16.0%	+0.9%
	売上高	41,852	52,000	52,892	+26.4%	+1.7%
	営業利益	1,968	4,000	4,366	+121.8%	+9.2%

2021年7月よりエスペックサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

# 2022年度実績・受注高について

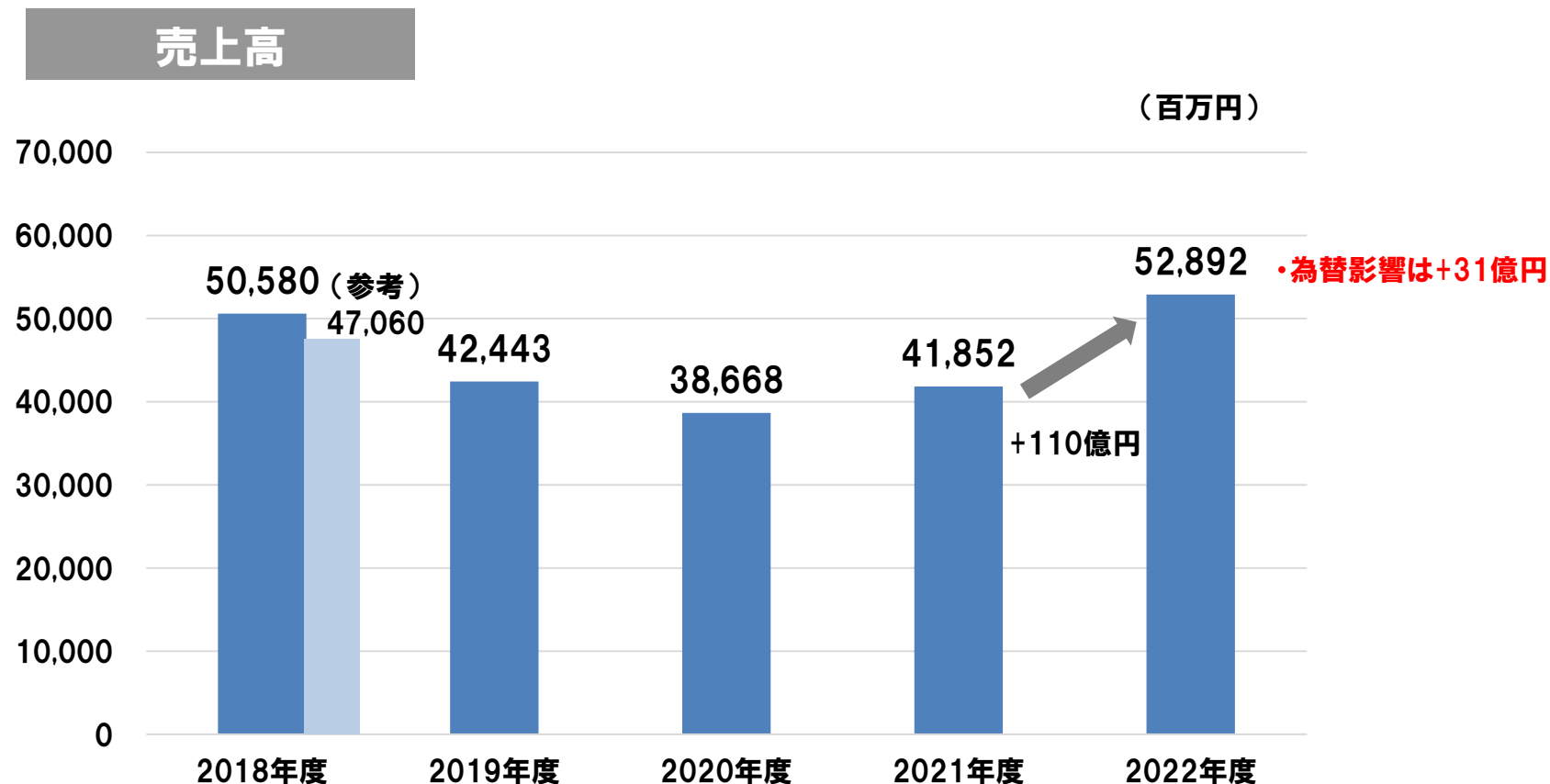
■ 受注高は、エレクトロニクスおよび自動車市場が想定以上に好調に推移  
2期連続で過去最高を更新



※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

# 2022年度実績・売上高について

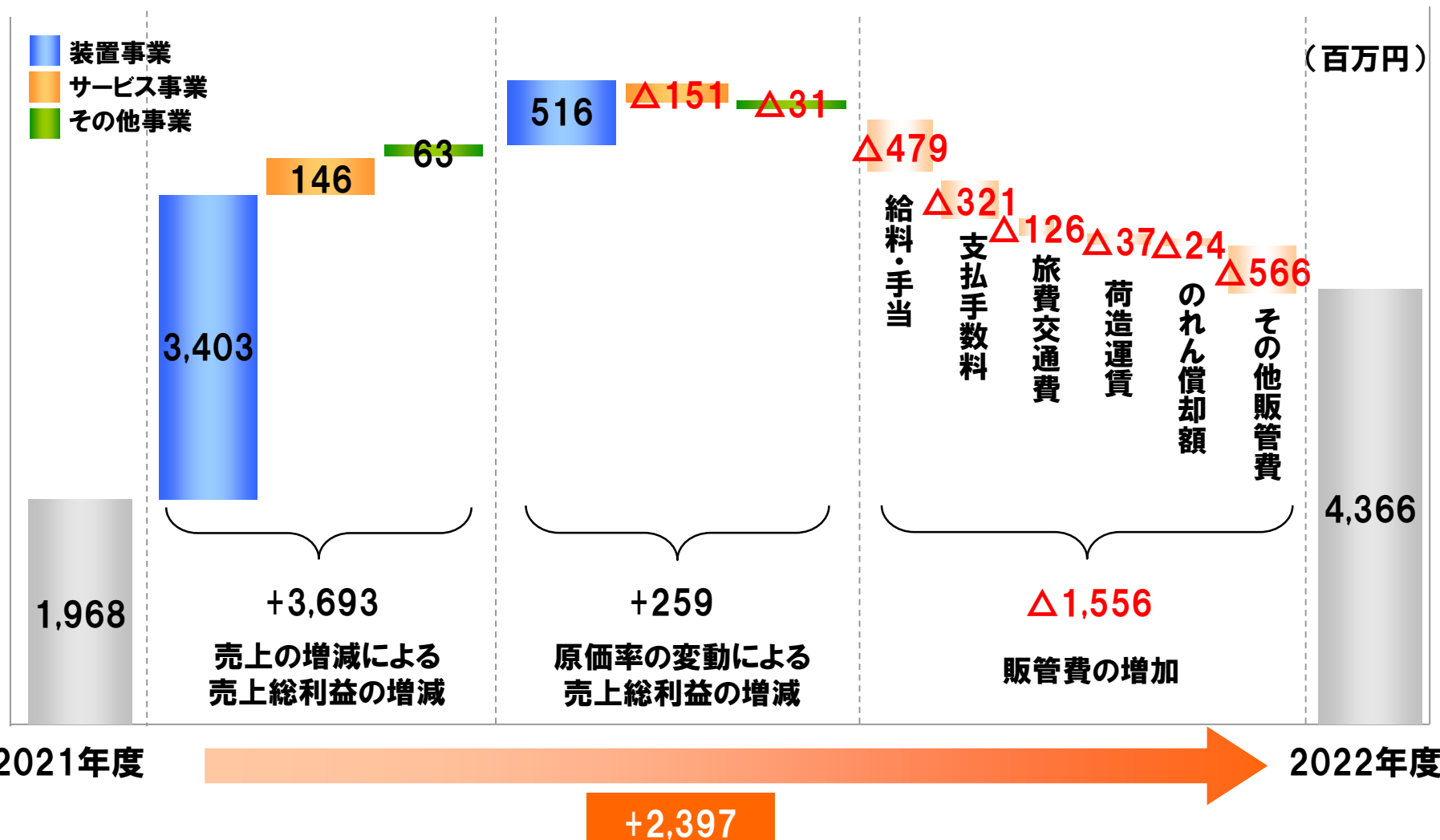
■ 売上高は、部品調達難および1Qには上海ロックダウンの影響を受けたがあらゆる対策を講じ生産量を確保、大幅に増加し過去最高を更新



※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

# 営業利益の増減要因分析(前期比)

■部材価格高騰・販管費増加の影響を受けたが、主に装置事業の増収により大幅増益



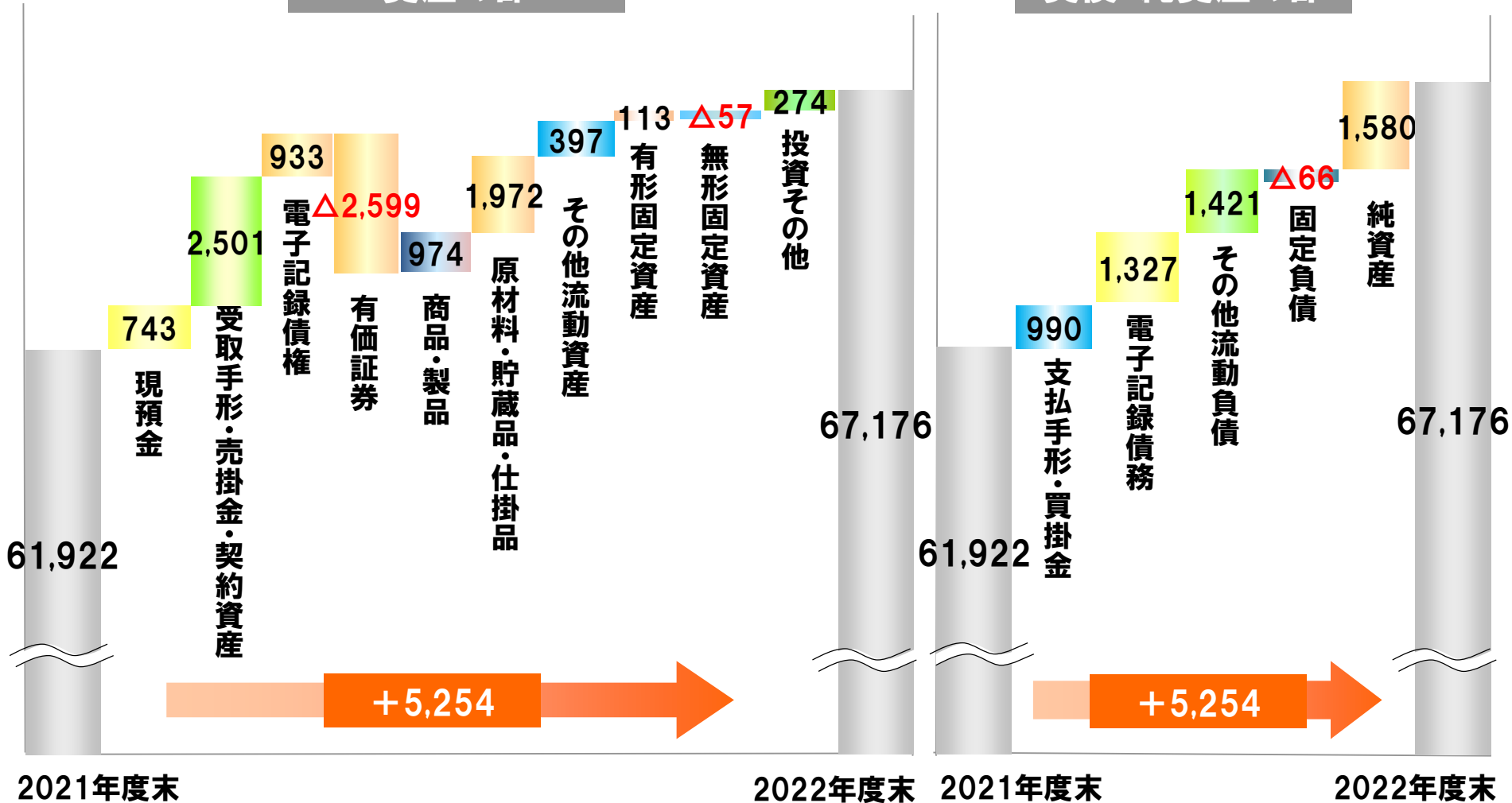
※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

# 資産・負債の状況

(百万円)

## 資産の部

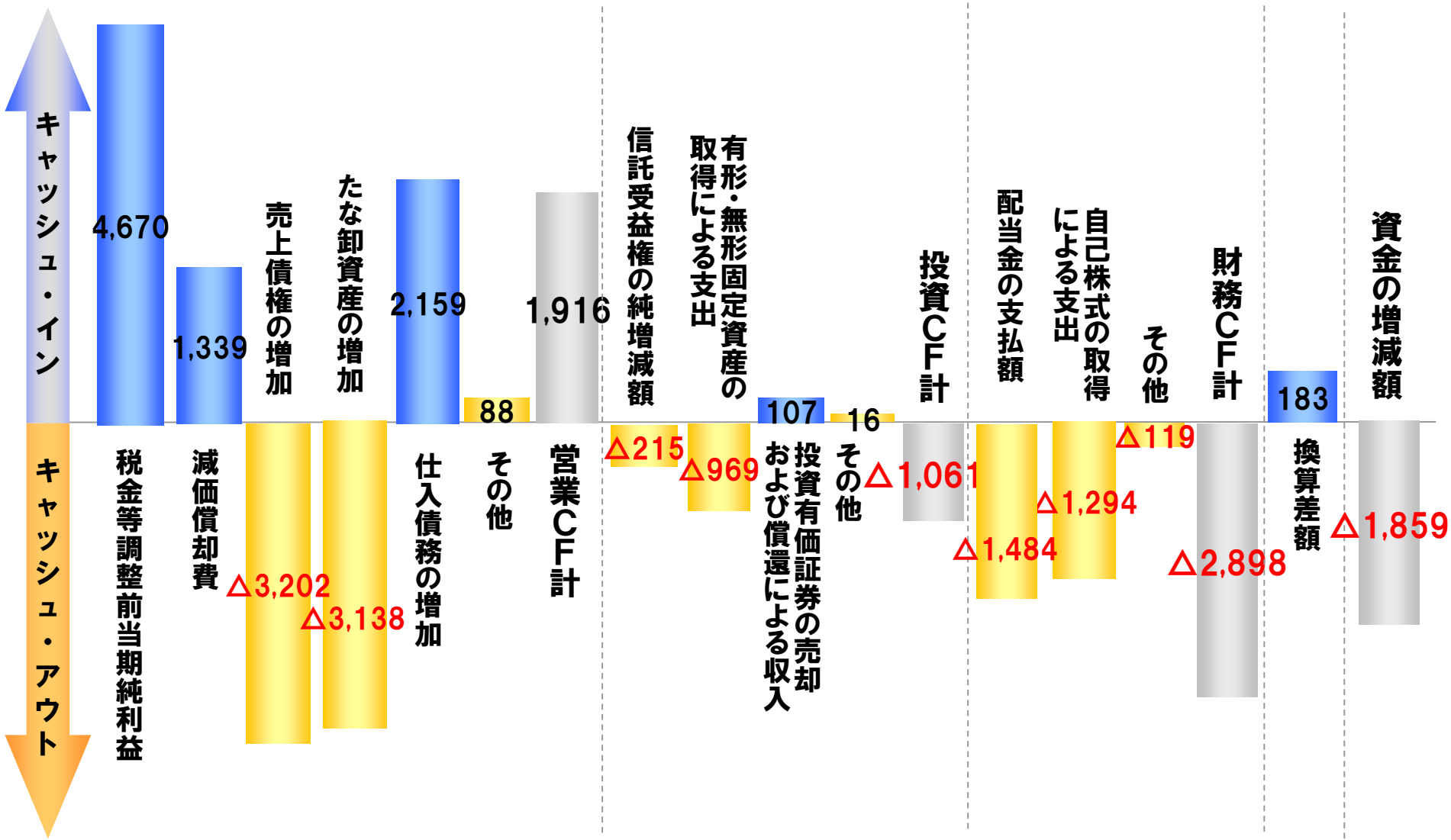
## 負債・純資産の部





# キャッシュフローの状況

(百万円)



# 装置事業セグメント

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	43,535	51,000	51,446	+18.2%	+0.9%
売上高	34,518	44,400	45,031	+30.5%	+1.4%
営業利益 [利益率(%)]	1,370 4.0%	3,760 8.5%	3,919 8.7%	+186.0%	+4.3%

## 環境試験器

- 国内では、部品調達難の影響を受けたが、汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに受注高・売上高が前期比で増加
- 海外では、受注が好調に推移し、売上高は中国、北米、欧州、東南アジア、韓国において前期比で増加

## エネルギーデバイス装置

- 自動車の電動化に向けた投資拡大により、主に国内において充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高は前期比で大幅に増加
- 売上高は、部品調達難の影響を受け前期並み

## 半導体関連装置

- 主力のバーンインチャンバーで顧客の計画遅れの影響を受けたが、受注高・売上高ともに前期並み

# サービス事業セグメント

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	6,771	6,720	6,963	+2.8%	+3.6%
売上高	6,407	6,470	6,788	+5.9%	+4.9%
営業利益 [利益率(%)]	618 9.7%	230 3.6%	428 6.3%	△30.8%	+86.1%

## アフターサービス・エンジニアリング

- 保守契約など予防保全サービスが堅調に推移するとともに、修理サービスで調達困難部品の入手が進み、受注高・売上高ともに前期比で増加

## 受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期並み

# その他事業セグメント

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	1,265	1,580	1,469	+16.1	△7.0%
売上高	1,188	1,430	1,404	+18.2	△1.8%
営業利益 [利益率(%)]	△23 △2.0%	10 0.7%	16 1.2%	-	+65.4%

## 環境保全・植物育成装置

### ■ 受注高・売上高ともに前期比で増加

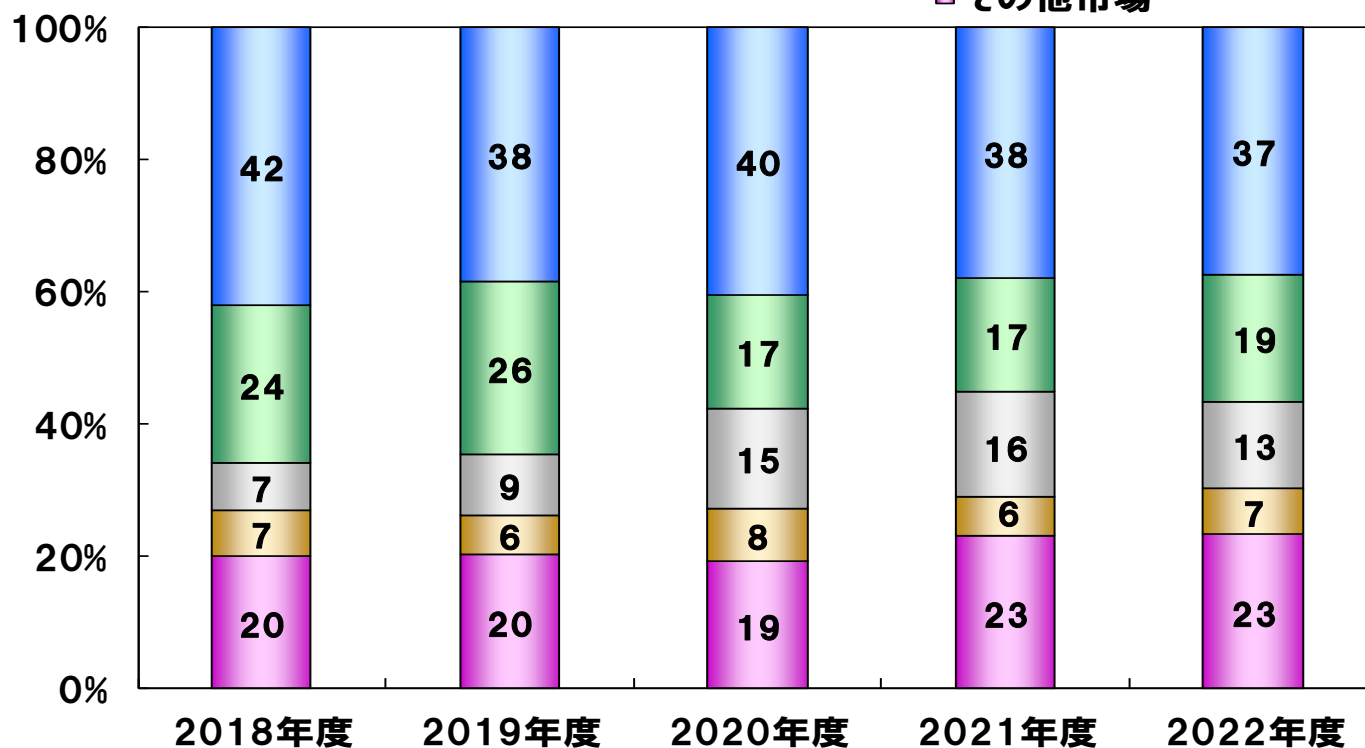
森づくりや水辺づくりは低調に推移したが、植物研究用装置や植物工場は前期を上回る

# 市場別売上構成比

■先端技術分野であるIoT関連市場(通信端末・基地局・サーバ)  
および次世代自動車関連市場(電動化・自動化)を中心に拡大

単体(装置事業)

- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関市場
- その他市場

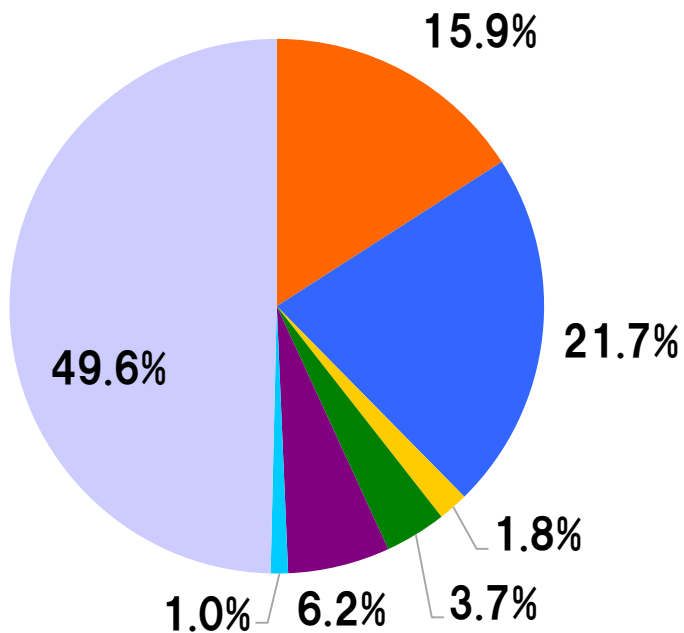


# 地域別売上構成比

■2期連続で海外売上高比率は50%超。エリアでは中国、欧米の比率が上昇

2021年度

海外売上高比率:50.4%

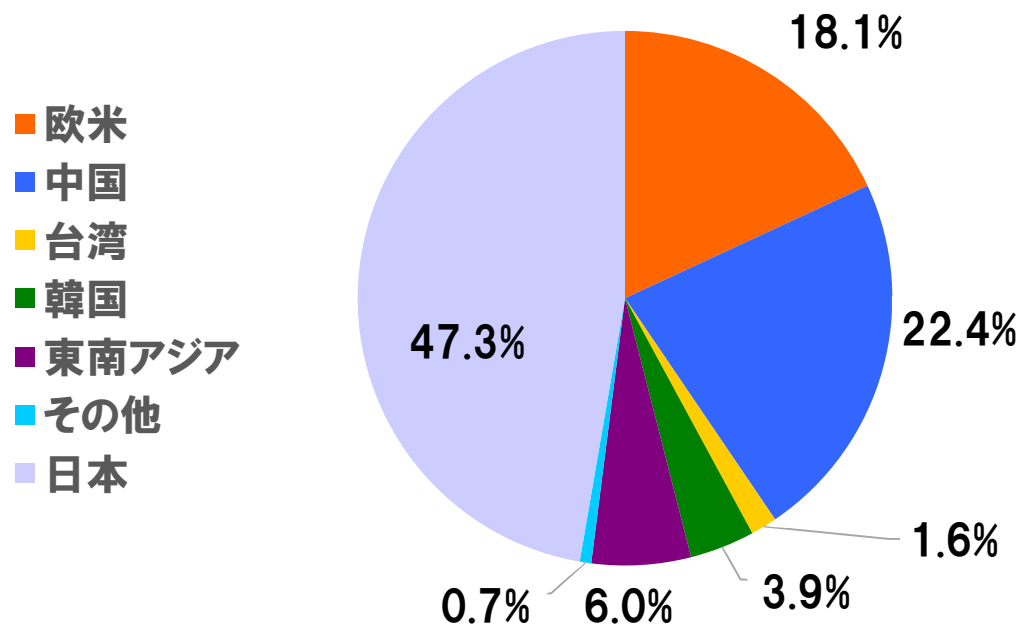


計 41,582百万円

(海外売上高:21,080百万円)

2022年度

海外売上高比率:52.7%



計 52,892百万円

(海外売上高:27,884百万円)

# 2023年度計画について

- 不透明な経営環境が継続するが、受注高は、先端技術分野を中心に引き続き高水準を維持すると予想
- 一方、部品調達はいまだ不安定であり、下期以降の正常化を予想
- 部材価格が高騰するなか、さらなる製品価格の改定を実施し「製品納期正常化」および「収益力の向上」に全力を挙げる

# 2023年度 業績予想

(百万円)

	2022年度	2023年度 予想			
	通期実績	上期	下期	通期	前期比
受注高	59,521	26,500	27,500	54,000	△9.3%
売上高	52,892	26,000	30,000	56,000	+5.9%
売上総利益	17,957	8,750	10,250	19,000	+5.8%
[利益率(%)]	34.0%	33.7%	34.2%	33.9%	△0.1pt
販管費	13,590	6,900	7,100	14,000	+3.0%
[販管费率(%)]	25.7%	26.5%	23.7%	25.0%	△0.7pt
営業利益	4,366	1,850	3,150	5,000	+14.5%
[利益率(%)]	8.3%	7.1%	10.5%	8.9%	+0.6pt
経常利益	4,664	1,950	3,150	5,100	+9.3%
[利益率(%)]	8.8%	7.5%	10.5%	9.1%	+0.3pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,330	1,300	2,350	3,650	+9.6%
[利益率(%)]	6.3%	5.0%	7.8%	6.5%	+0.2pt
設備投資額	1,311	1,310	1,790	3,100	+136.3%
減価償却費	1,328	710	770	1,480	+11.4%
研究開発費	1,041	820	670	1,490	+43.0%
1株当たり当期純利益(円)	150.34	59.54	107.64	167.18	+11.2%

※ROE(自己資本利益率) 2023年度目標 7.5%(前期比+0.3pt)



# 2023年度想定為替レート

## ■想定為替レート

	2021年度	2022年度		2023年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USD(円)	112.40	134.04	135.51	130

※参考 : 2023年度為替感応度(対ドル1円円安)

売上高 185百万円増加

営業利益 35百万円増加

# 環境認識

経営環境は不透明ではあるが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に需要は継続すると予想

装置事業	環境試験器	<p>日本 :EV・自動運転関連の投資が引き続き好調、IoT関連の投資は一服感があるが堅調に推移</p> <p>中国 :EV、IoT関連を中心に投資は継続</p> <p>ASEAN :半導体関連の投資は不透明であり前期を下回ると予想</p> <p>北米 :景気減速を懸念するが、EV、IoT関連の投資は継続</p> <p>欧州 :EV、IoT関連の投資は継続</p>
	エネルギーデバイス装置	国内外で二次電池向け投資が拡大すると予想
	半導体関連装置	下期以降投資が回復すると予想
サービス事業	<p>アフター・エンジ 受託試験・レンタル</p>	<p>アフター・エンジ :前期と同水準になると予想</p> <p>受託試験 :二次電池を中心に先端技術分野の需要が好調</p>
その他事業	<p>環境保全 植物育成装置</p>	環境保全(森づくりや水辺づくり)を中心に回復を見込む

# 2023年度の主な取り組み

## 装置事業

- ・収益力の向上、製品納期正常化および受注残高の早期解消
- ・グローバルに拡大するバッテリー市場への対応強化

## サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大  
受託試験 :自動車を中心とする先端技術分野向け試験サービスの拡充

## エリア戦略

日本:EV・自動化、IoT分野のニーズに適合した製品投入による販売拡大、買替需要の喚起  
北米:インフレ抑制法(IRA)による自動車市場の需要拡大への対応  
中国:グループ連携によるEV、IoT市場への販売拡大  
欧州:製品ラインアップ拡充による自動車およびIoT市場の開拓  
韓国:グローバル大企業への販売拡大

# セグメント別の業績予想

(百万円)

		2022年度	2023年度予想			
		通期実績	上期	下期	通期	前期比
装置事業	受注高	51,446	22,550	22,950	45,500	△11.6%
	売上高	45,031	22,450	25,250	47,700	+5.9%
	営業利益	3,919	1,870	2,800	4,670	+19.1%
サービス事業	受注高	6,963	3,350	3,650	7,000	+0.5%
	売上高	6,788	3,150	3,750	6,900	+1.6%
	営業利益	428	30	270	300	△29.9%
その他事業	受注高	1,469	750	1,050	1,800	+22.5%
	売上高	1,404	550	1,150	1,700	+21.0%
	営業利益	16	△50	80	30	+81.3%
連結消去	受注高	△359	△150	△150	△300	-
	売上高	△330	△150	△150	△300	-
	営業利益	1	0	0	0	-
計	受注高	59,521	26,500	27,500	54,000	△9.3%
	売上高	52,892	26,000	30,000	56,000	+5.9%
	営業利益	4,366	1,850	3,150	5,000	+14.5%

# 2023年度ESGの主な取り組み

## ■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:低GWP冷媒への置き換え  
製造など事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量削減
- ・生物多様性保全活動:エスペックミツクの事業による貢献  
「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進

## ■S(社会)

- ・人的資本の強化:管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度、  
1on1の実施、次世代幹部育成
- ・ダイバーシティの推進:女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

## ■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化および内部統制システムの整備・強化

# 2023年度の投資計画

戦略投資	16億円
通常投資	15億円
設備投資 合計	31億円

研究開発費	14.9億円
-------	--------

## 主な投資内容

- ・受託試験所の増設
- ・生産設備の更新 など

## 主な開発内容

- ・先端技術分野向け製品開発
- ・海外市場向け大型製品の開発 など

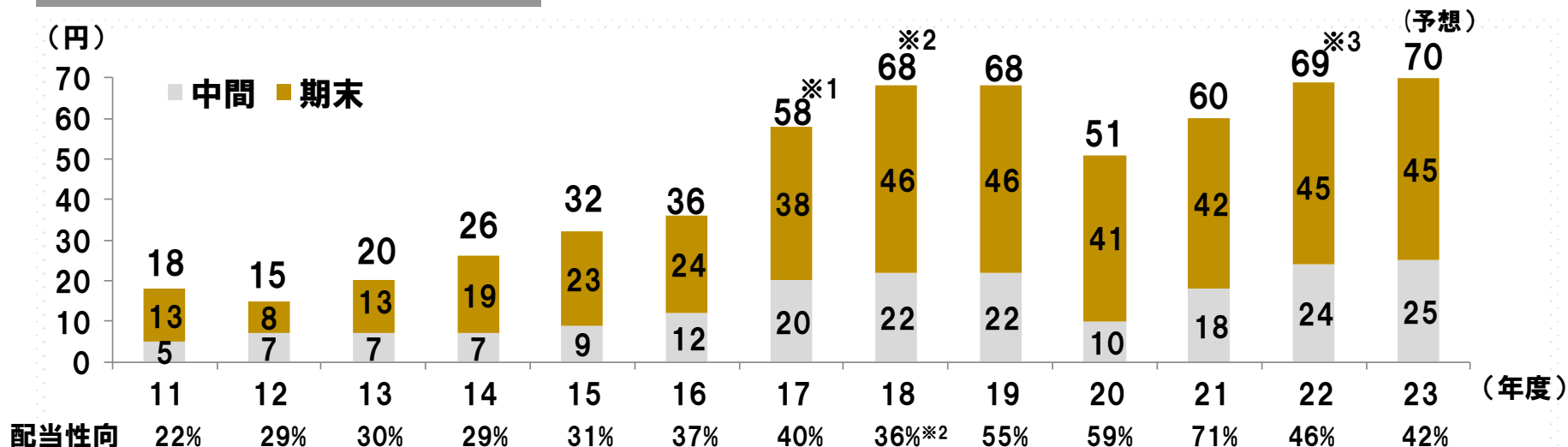
# 2023年度 配当予想

## 利益配分に関する基本方針

配当については継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本としています

- ・配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に配当として上乘せする
- ・安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う
- ・必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

## 一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

## 【国内初】車載用バッテリーパック・モジュール不具合解析サービス

- ・2022年11月、バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始
- ・パック・モジュールを解体したうえで電氣的・視覚的に診断し、不具合の部位を特定
- ・公正な第三者機関としてサービスを提供し、車載用バッテリーの性能・安全確保に貢献



セル解体用グローブボックス

## 5G通信機器の温度特性試験に対応 電波暗箱型恒温器をラインアップ拡充

- ・5G対応の無線送受信モジュールや通信端末、基地局の通信性能や安全性を確認する電波暗箱型恒温器を新たに4器種開発
- ・シールド機能(電波を遮蔽)、電波暗箱機能(槽内での電波反射を防ぐ)を備え、 $-40^{\circ}\text{C}$ ～ $+100^{\circ}\text{C}$ の温度環境下での無線試験が可能



電波暗箱型低温恒温器



## 兵庫県立大学と「SDGs推進」に関する協定を締結

- ・2022年8月、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結
- ・生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において両者が持つ知見や技術を活かして連携



締結式  
兵庫県立大学 学長 太田勲様(右)  
エスベック 代表取締役会長 石田雅昭(左)

## 生物多様性保全活動 「エスベック50年の森」植樹祭

- ・兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくり「エスベック50年の森」を開始
- ・2022年11月、第1回植樹祭を開催  
炭素固定・生物多様性機能をふまえ苗を選定  
社員など約200名が参加し約4,000本を植樹



第1回植樹祭  
3.6haの土地に2年間で12,000本を植樹予定

# 社外からの評価

## ■2023年

- 3月 ・ CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」  
最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定
- 2月 ・ 東洋経済新報社「2023年版CSR企業ランキング」372位



## ■2022年

- 12月 ・ CDP気候変動レポート2022において3年連続「Bスコア」
- ・ 日興アイ・アール「2022年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」2年連続最優秀サイト
- ・ ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2022」銅賞（業種別24位）



- 11月 ・ 日本経済新聞社「第4回日経SDGs経営調査」4つ星
- ・ 日本経済新聞社「第6回日経スマートワーク経営調査」3.5星



- 10月 ・ 日刊工業新聞社（経産省後援）「第18回企業力ランキング」155位



- 8月 ・ ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2022」優秀企業に初選定



- 7月 ・ 東洋経済新報社「2022年版SDGs企業ランキング」334位



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

- 4月 ・ ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に初選定

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。  
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、  
当社が計画・予測したものであります。  
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは  
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは  
ございません。**

**【お問い合わせ先】**

**エスペック株式会社**

**〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6**

**TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795**

**e-mail ir-div@espec.jp**

**サステナビリティ推進部 部長 中川  
IR・広報グループ 大川・貝川**

---

Quality is more than a word

ESPEC